

総務教育厚生常任委員会

委員長
佐藤博水

9月7日に総務教育厚生常任委員会を開催し、新型コロナウイルスワクチンの接種状況や今後の予定などについて、福祉保健課より説明をいただき意見交換を実施しました。

本村では、5月から75歳以上の方を対象として、富士河口湖町と共同でワクチン接種が開始され、8月からは19歳以上の方を対象に村民体育館において単独接種が実施されました(9月19日で終了)。

説明では、65歳以上の方の接種率は約9割に達しており、19歳から64歳までの方の接種率も8割を超える見込みであるとのことでした。

また、現時点で高校生のワクチン接種については9月21日から富士河口湖町中央公

民館(以下「河口湖会場」)で受け入れていただくこととなり、中学生と小学6年生についても同様に河口湖会場で受け入れてもらう予定であるとの説明があり、その後受け入れが決定して、10月末まで河口湖会場で18歳~12歳の希望者の方のワクチン接種が実施されることとなりました。

また、急遽、小学校と保育所における新型コロナウイルス感染症対策について、教育委員会と住民課に現在の状況等についてお話を伺い、意見交換を行いました。総務委員会からは、感染拡大予防のための小学校のオンライン授業導入や、不安を解消するための抗原検査の実施などについて、前向きな検討をお願いいたしました。

建設産業経済常任委員会

委員長
渡辺次男

9月2日に、建設産業経済常任委員会を開催し、継続的に実施しております道の駅リニューアルについての協議を行いました。

6月25日に実施した、指定管理者であるJA鳴沢村の職員や役場企画課との意見交換会で出された課題や、7月16日及び9月2日に開催された道の駅専門部会での協議事項等について委員長より報告し、その内容をもとに意見交換を行いました。

■意見交換会で確認された課題

- 軽食堂の食事スペース、厨房、食材倉庫の不足
- トイレの感染症対策が出来ていない
- 物産館の動線改善および感染症対策、物産館の作業場確保
- 多目的トイレ改修
- 授乳室の新設
- 施設管理の見直し
- 防犯カメラの新設
- 樹木等の管理

■村とJAで協議し対応・確認した事項

- トイレの感染症対策として手洗い石けん及び便座クリーナーを設置
- 駐車場周辺の大きな樹木については、村で年に数回枝打ちを実施して管理
- 休憩室の改修よりも南側テラスの改修と厨房の修繕を優先することを確認

Q 大規模停電時でも水道水は供給されるか

A 施設全体の在り方について検討を進めていく



渡辺 正人 議員

鳴沢地区は、主に三本松水源とドウコンダシ水源から、大田和地区は主に大持水源と前原水源から水道水を供給している。どの水源池も、停電時はポンプが停止し、貯水池の水が無くなれば供給出来なくなる。

村の説明では、非常時は三本松水源に設置してある非常用電源により、ポンプを稼働する事が出来るので、給水管の途中から切り回しを行う事で、大田和地区への供給も可能との見解である。しかし、実際に全ての住宅に水が流れるのかなど、不透明な部分が多い。

非常用電源を後付け出来る制御盤を設置して備えている自治体もあるが、大持水源にも導入してはどうか。

●振興課長 木暮 富人

長期間にわたる大規模停電発生時には、直ちに平常時のような給水を行うことは現実的には不可能だと考えている。給水車等による水の配布のほか、時間を制限しながらエリアを分けて給水を行い、電力復旧の状況を確認しながら給水範囲を広げていくことになる。

制御盤の設置については、昨年度検討したが、災害発生時に施設に見合う高出力の発電機、運搬車両等が確保できるか、また、発電機設置・接続に係る電気主任技術者が確保できるかなどの課題がある。なお、三本松水源に導入した非常用発電機は取り外しが可能となっており、三本松水源に停電が発生せず稼働できている場合に、他の施設に移設することができるが、この場合も運搬車両等及び電気主任技術者の確保など、実現性のある計画を定めておくことが必要だと考えている。

現在の鳴沢村の水道施設は、構造上電気料が高額な箇所や、効率的でない箇所もあるため、村全体の施設の在り方について、制御盤設置などを含めた災害を想定した検討を進めていきたい。



三本松水源の非常用自家発電装置

Q 感染予防に対応した 避難所の検討は

A 備蓄品の感染症対策は完了

8月18日の豪雨時に郡内自治体でも避難指示を発信したが、実際の避難者は僅かであった。避難所で密になりたくないといったコロナ禍ならではの利用に対する阻害要因があったと思われる。

コロナ禍に限り、家族単位の個室避難所として村内の民宿、旅館等を活用する考えはあるか。



プライバシーに配慮したパーティション



土屋 文明 議員

●総務課長 三浦 寿得

本村では山梨県東海地震被害想定調査報告書に基づき、想定避難者数を460人として、避難所の収容定員及び備蓄品の数量を計画的に整備している。

コロナ禍以前より過去の災害対応を教訓にプライバシーに配慮したパーティションを整備するなど、避難所の生活環境整備を進めてきた。

備蓄品の中でも、パーティション、段ボールベット、自動ラップ式トイレについては、コロナ禍に対応するようプライバシーの配慮や感染症対策として令和2年度に整備を完了した。

村内の民宿、旅館等の活用は考えていないが、想定を超えた避難者が発生した場合や観光客、帰宅困難者の支援については状況に応じて判断する。

Q 獣害対策として超音波発信器 の設置は

A グレーチングを設置し効果検証を行う



渡辺 宗司 議員

本村では、広域的に獣害対策として防護柵が設置してあるが、防護柵と交差する道路から村内にシカ、イノシシ等が自由に侵入できる。

その交差箇所に害獣侵入防止策として超音波発信器を設置する考えはあるか。

●振興課長 木暮 富人

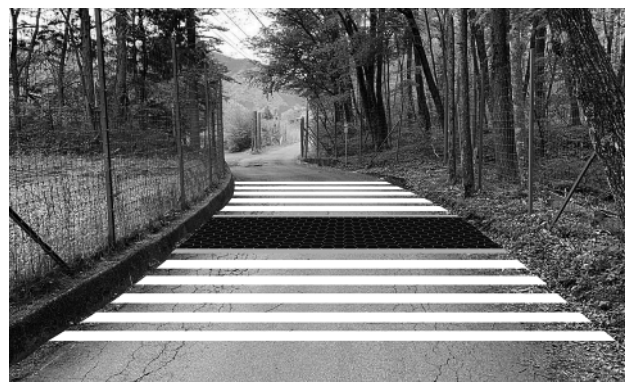
平成21年度に茅つけ林道と村道との交差箇所、超音波装置を検証したが、侵入する個体もあり、近隣住民からの音に対する苦情や、電気料等の運用経費がかさみ撤去した経緯がある。

また、地震の周波数を利用した装置2基を設置して検証したが、侵入する個体があった。

このように、音波等を利用した装置は個体差が

あり、侵入を防止できないこと、音波に慣れて効果が持続しないことなどから、村としては、音波等による侵入防止装置の採用は今後も予定していない。

本年度村道703号線の拡幅工事に併せて、シカやイノシシ等の2本爪の動物の侵入防止効果が高く、全国的に導入が進んでいるグレーチングを設置予定であり、設置後は赤外線カメラによる効果検証を行う。



村道703号線に設置予定のグレーチング (イメージ図)

Q 家庭での防災対策の推進は

A 災害時における対応方針の計画が必要

近年は地球規模による異常気象が顕著に見られるようになった。

東日本大震災から10年が過ぎ、防災意識が薄れているように感じるが、コロナ禍で訓練等が思うようにできない現状であり、家庭での防災意識が懸念される。

このような時期だからこそ、家庭での防災計画の推進を行っては。

●村長 小林 優

日本は、その地理的要因から過去より各地で大規模な災害に見舞われている。

鳴沢村は、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、南海トラフ地震防災対策推進計画を策定し、南海トラフ地震を想定した防災訓練を令和元年度から実施している。

村では、災害が発生し役場機能が低下しても、迅速に災害対応を行い、最低限の行政サービスを維持し、住民の生命・身体及び財産を保護し、住民生活への影響を最小限に抑え、可能な限り早期に通常業務を復旧することを目的とした「鳴沢村業務



小林 昭一 議員

継続計画」を策定し、計画の検証を行い、継続的に改善を行っている。

災害発生時には、十分な災害対応が取れない場合、現在4名の防災士にもご協力を頂きたい。

家庭での防災計画は非常に重要であり、災害や万が一の事故が起こった際の対応方針を改めて計画しておく必要がある。計画で考える優先順位は、第一に自分と家族の生命を守ること、第二に被害を最小にすること、そして、第三にできるだけ早く元の生活ができるようにすることである。さらに、それぞれについて、災害や事故が起こる前に準備しておくことと、実際に災害や事故に遭遇した場合の対処方法と二つに分けて考える必要がある。

各家庭の防災計画を作成し、災害への備えを行っていただきたい。

3年振りに奨励賞を受賞! ～山梨県広報コンクール～

令和2年度山梨県広報コンクールにおいて、『なるさわ議会だより第42号』が議会広報紙部門町村の部で、3年振り4回目となる奨励賞を受賞しました。

審査委員からは「随所に変化をつけ、読み手を飽きさせない工夫が見られる」「決算の記事が、概要、監査意見、審査、議論、結果と一つにまとめられ、読みやすい工夫がされている」といった高評価をいただきました。

これからも読みやすく、わかりやすい議会だよりづくりを心がけ、さらに上位への入賞を目指して頑張っていきたいと思ひます。



村長へ「要望書」を提出

9月30日に正・副議長が村長を訪問し、21日の議員協議会でとりまとめた要望書を提出しました。

地方議会には「執行機関の監視」と「政策形成」の2つの役割があります。

このことを再認識し、議会の責務として政策立案の役割を果たすべく全議員で協議し、議会の総意として要望書を提出いたしました。(内容を一部要約しています。)



1. 防災について

- (1) 防災情報等の発信強化及び住民の利便性の向上のため、防災情報を中心として防犯、子育て支援、医療機関情報、ゴミ収集、おくやみ、給食の献立など様々な情報を取得できる村独自のアプリを導入していただきたい。
- (2) 災害等による長期間の停電に備え、家庭用自家発電機やリチウムイオン蓄電池等の購入に対する補助金制度を創設していただきたい。

2. 観光振興について

- (1) 生き生き広場にドッグランを併設したり、遊具を充実させたりするなどして、観光客が家族等で長く滞在できるように、広場の有効活用を検討していただきたい。
- (2) ジラゴンノ運動場の周辺にある、比較的安全性の高い溶岩スパイラクル群について、看板・案内図等の整備や情報発信などを強化して、観光資源としての活用を検討していただきたい。
- (3) 大田和地区にある文化財等(八幡神社、榛名の池、行者堂、山の神など)について、看板・案内図等の整備や情報発信などを強化して、観光資源としての活用を検討していただきたい。

3. ふるさと納税について

全国的にふるさと納税に力を入れる自治体が増え、寄附額を大きく伸ばしているところが見受けられる。本村でも事務従事人員を増員するなど、態勢を強化して取り組んでいただきたい。

4. 子育て支援について

- (1) コロナ禍においては、子育てに関する悩みなどを相談できる場所が少なくなっていると思われる。オンラインでの相談窓口の創設など、

コロナ禍に即した子育て支援を推進していただきたい。

- (2) 子育てにおける母親の負担・不安を軽減させるためには、父親の役割が重要であると思われる。子育て世代の父親向けの子育て教室等支援事業について推進していただきたい。

5. 高齢者等支援について

今後増加することが予想される高齢者等の買い物難民対策として、JAやスーパー・コンビニなどと提携して、移動販売車の導入等、対策を推進していただきたい。

6. 農業振興について

- (1) サンライムなどと同様に、鶏糞等の堆肥の購入についても補助対象に追加していただきたい。
- (2) 近年、被害が拡大傾向にあるアライグマについて、捕獲用の檻の基数(貸し出し数)の増強及び管理の徹底や、檻の購入に対する補助金制度の創設など、対策を強化していただきたい。

7. 国道について

現在徐々に進められている国道沿いの無電柱化に合わせて、国道139号の四車線化を推進していただきたい。

8. その他

- (1) あおり運転などへの対策として、ドライブレコーダーの購入に対する補助金制度を創設していただきたい。
- (2) 利用者の利便性向上のため、未整備となっている公共施設のトイレの洋式化を迅速に推進していただきたい。

議会だより

モニター通信

議会だよりモニターの皆さまから、8月発行の議会だよりNo45について、次のようなご意見等をいただきました。皆さまからのご意見を参考に、今後もよりよい議会だよりを作りたいと思います。

コロナ禍の中、オリンピック聖火リレーの表紙の写真がとても癒やされます。

岡崎朋美さんからの聖火を受け継ぎ、聖火ランナーの大役を務めた皆様、お疲れさまでした。

私も生きているうちにと見に行かせていただきました。とても感動・感激いたしました。

(60代 女性)

議員さん個々の想いや議員外での姿が書かれ、親近感が湧いてよかったです。10年以上在職されている方もいて頭が下がる思いです。

築40年を経過した公共施設についてありましたが、役場が少し暗く古いのでリフォームしても良いかと思いました。

(40代 女性)

議員活動の半期を振り返っての紙面で多くの方が防災について触れていました。災害は誰もが関心があると思います。

そこで、機会がありましたら、議員さん全員に防災について具体的な取り組み方法やお考えなどを掲載していただくのはいかがでしょうか。

(50代 男性)

「2年間を振り返って」のコーナーでは、議員の皆様の日頃の活動や村の将来についての考え方などを知れて身近に感じることができました。ありがとうございます。

今の状況だからこそ自治体の特色が示しやすいと考えています。

今後の議員活動も応援しています。

(30代 女性)

「2年間を振り返って」は議員さんの姿や活動の様子が分かり親しみやすくなったと思います。

防災時の総合センターの受け入れ体制整備には力を入れて欲しいと思います。

停電になると、スマホも使えずラジオも入りづらい地域があるので、解消を期待します。

(70代 男性)

コロナ禍における学習支援について、小学生からすれば夏休みなどが短くなってしまうのは残念だと思いますが、コロナ禍にあった学習環境の準備が進んでいて安心しました。

(20代 男性)

今回の議会だよりの中に災害に関する内容が有りました。異常気象などで各地で大規模な災害が発生しています。災害に強い村づくり、災害発生時の対応など、これからも議会で議論していただき、安心して生活できるよう、今後も議会だよりで紹介いただきたいです。

(40代 男性)

「2年間を振り返って」今まで議員さんは偉い人、遠くの人と思っていましたが、各議員さん、それぞれ得意の分野でご活躍されておられることがわかり、議員さんがより身近に感じられるようになりました。ありがとうございます。

(80代 男性)

今般のコロナ禍で村の行事が中止となり、議員さんとの交流がほとんどない現状の中、議員さんの素顔、村への想いに焦点を当てた企画は面白く、楽しく読ませていただきました。

また、追跡リポートは、その後の取り組みの報告として、とても大切だと感じました。

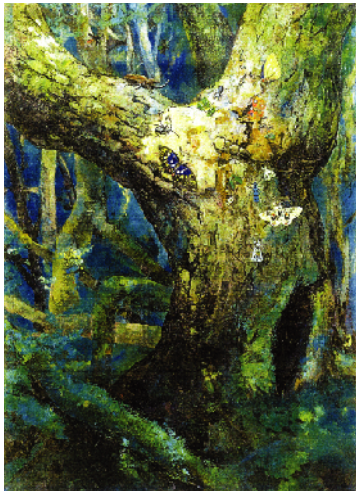
(30代 女性)

創造・芸術で子供たちに感動を

日本美術家連盟会員
白涛会副会長
五湖美術会会長
國島 展夫

北海道生まれの私は今から21年前、第2の人生60歳の退職後、横浜からこの自然豊かな富士の麓を選び鳴沢村に移住を決めた。高校時代毎日の様に描いていた絵を再現したい一心からだった。

以来、東京・横浜で12回の個展を展開した。



白涛会美術展で最高賞に輝いた作品『森の宴』

札幌西高校卒業後多摩美術大学でデザインを勉強し、横浜高島屋に就職。企画宣伝部で文化催・イベント等の企画や会場作りに奔走。常に新しいデザインを発表出来る最

も充実した20年だったが、過労により美術部に転属すると、更なる幸運に恵まれた。150年の歴史ある美術部で人間国宝・芸術院会員・伝統工芸師などの諸先生から、芸術文化の重要な考え方を教えていただく18年となった。



創造の世界は自然界に尊敬の念を持ち、感謝し、人間としてどう生きるか、芸術が人間形成に持つ役割を考え、子供たちに感動を与え伝えていく。

私の教育方針は、一人一人の個性を尊重し、感じているものを受け止め力を引き出す事。その為に大人も勉強あるのみと思っている。

広報常任委員推薦！ 鳴沢のおすすめ！

広報常任委員会副委員長
渡辺 正人

鳴沢村にも榛名山があった！

八幡神社正面に、文政八年榛名山と彫られた石灯籠がある。明治初年頃まで、元の榛名山の登り口に建てられていた灯籠で、登り口は、八幡神社西方、コピラと言われた山の付近と言われている。



八幡神社 石灯籠

榛名山は、群馬県天台宗の満行権現が、本元の様である。当地の榛名山には、行者堂が山造された跡があり、安政年間頃、大田和の天台宗系の行者が建てたらしい。

また、大正の初期まで榛名山にある榛名の池では、雨乞いの儀式が行われ、榛名山宝剣も昭和の初めまで、榛名の池そばにあった様である。

※情報提供は、鳴澤村郷土史研究会



榛名の池

総務教育厚生常任委員会より

8月に入り全国で新型コロナウイルス感染症の陽性者数が爆発的に増加し、山梨県でも1日の陽性者数が100人を超える日があるなど、いわゆる「第5波」が猛威を振りました。

9月後半から10月にかけて状況は沈静化し、陽性者数が0の日が続くこともありました。「ワクチン接種拡大の効果」との考えがある一方で、これからの寒い季節へ向けて「第6波」の発生が不安視されております。

陽性者数の減少や規制の緩和等により気が緩み、感染症対策がおろそかになることが懸念されていますが、ワクチン接種の有無に関わらず、大人数での会食は控え、マスク・手洗い・うがいといった基本的な感染予防策を継続しましょう。

なるさわ議会だよりは、ホームページでも公開しています。また、本会議の会議録も公開していますので、ぜひアクセスしてください。

